

# 平成 28 年度事業報告について

## I. 法人の概要

### 1. 名称等

公益社団法人日本造園学会

英文表記：Japanese Institute of Landscape Architecture

設立等：大正 14 年 4 月 14 日社団法人日本造園学会設立

平成 24 年 4 月 1 日公益社団法人へ移行

### 2. 主たる事務所の所在地

東京都渋谷区神南 1 丁目 20 番 11 号

### 3. 会員

会員種別	員 数		増減(△)数
	本年度末現在 (H29. 3. 31 現在)	前年度末現在 (H28. 3. 31 現在)	
名誉会員	23	23	0
正会員	2,264	2,260	4
準会員	13	19	△ 6
賛助会員	63	63	0
購読会員	118	122	△ 4
計	2,481	2,487	△ 6

### 4. 会費

正会員 12,000 円，正会員（大学院生）9,000 円，準会員（学部生）3,000 円，  
賛助会員 1 口 18,000 円，購読会員 1 口 12,000 円

### 5. 執行体制

理事の数：20 人（非常勤）

監事の数：3 人（非常勤）

職員の数：4 人（常勤 3 人，非常勤 1 人）

### 6. 公益目的事業

造園に関する調査研究，出版，講習・研修，専門教育推進・評価，表彰を通じて，造園に関する学術および技術の進歩をはかり社会の発展に貢献する事業

### 7. 収益事業等

なし

## Ⅱ. 事業の状況

### 1. 調査研究事業

#### (1) 一般研究

- ・ 研究推進委員会として、生態工学研究推進委員会、ランドスケープ技術連携研究推進委員会、風景計画研究推進委員会、パークマネジメント研究推進委員会を組織し、社会的要請に対応するための個別テーマによる研究を推進した。
- ・ これらの成果は、機関誌への掲載（出版事業）や全国大会における研究集会（講習・研修事業）等において公表した。

#### (2) 特別研究

- ・ 熊本地震復興支援調査委員会を設置し、平成 28 年 4 月に発生した熊本地震に関連する情報収集と調査研究活動を行った。また、平成 28 年度全国大会において調査報告会、緊急集会を開催し、調査の内容を広く会員に共有するとともに、今後の熊本地震の復興支援において取り組むべき内容を検討した。
- ・ ランドスケープ遺産インベントリー作成を継続して進め、各支部において関連する情報収集と調査研究活動を行った。

### 2. 出版事業

#### (1) 機関誌「ランドスケープ研究」

- ・ 機関誌「ランドスケープ研究」第 80 巻第 1 号～第 4 号を編集、刊行した。
- ・ 記事の内容は、全国大会関連記事、特集企画に加え、各種の連載記事、学会からの連絡事項等とした。
- ・ 特集企画のテーマは、「ランドスケープ研究の潮流と展望」（第 80 巻第 1 号）、「これまでの都市公園、これからの都市公園」（第 80 巻第 2 号）、「海辺のランドスケープ」（第 80 巻第 3 号）、「関西造園界 50 年の歩み」（第 80 巻第 4 号）とした。
- ・ 連載記事としては、「生きもの技術ノート」（第 80 巻 1 号、2 号、3 号、4 号）「海外の造園動向」（第 80 巻 1 号、2 号、3 号、4 号）「造園雑誌アーカイブス」（第 80 巻 2 号、3 号、4 号）「これからのランドスケープの仕事」（第 80 巻 2 号、3 号、4 号）を掲載した。
- ・ 刊行作業では、造園に係わる研究者、実務者から構成される編集委員会を組織し、造園学術および技術に係わる各号のテーマや執筆者等を選定した。
- ・ 第 81 巻第 3 号までに掲載する特集企画および連載企画内容、執筆者等を検討した。

#### (2) 同研究発表論文集

- ・ 造園に関する会員の優れた研究論文を掲載した研究発表論文集をランドスケープ研究第 80 巻第 5 号として刊行した。研究発表論文集への掲載が決定した論文の第一著者は、全国大会（講習・研修事業）においての発表が義務づけられる。
- ・ 論文集の刊行作業では、造園に係わる研究者から構成される論文集委員会を組織し、規程にしたがって投稿された論文を審査して、学術的水準を評価し、論文集への掲載の可否を決定した。

#### (3) 同オンライン論文集

- ・ 造園に関する会員の優れた研究論文、短報を科学技術振興機構（JST）が運営する「科学技術情報発信・流通総合システム」（J-STAGE）で、オンライン論文集第 9 巻を電子ジャーナルとして刊行し、公開した。

- ・ 論文集の刊行作業では、造園に係わる研究者から構成される論文集委員会を組織し、年 3 回募集を行い、規程にしたがって投稿された論文等を審査して、学術的水準を評価し、論文集への掲載の可否を決定した。

#### (4) ランドスケープ研究増刊作品選集

- ・ 会員による優れた造園作品に関する報告を掲載した「ランドスケープ研究増刊作品選集 2018 (No. 14)」を刊行するため、造園に係わる研究者や実務者から構成される刊行委員会を組織し、刊行準備を行った。
- ・ ランドスケープ研究第 80 巻第 3 号および学会ホームページを通じて「作品選集 2018」に掲載する作品の募集を行った。

#### (5) ランドスケープ研究増刊技術報告集

- ・ 会員による優れた造園技術に関する報告を掲載した「ランドスケープ研究増刊技術報告集 (No. 9) 2017」を刊行した。
- ・ 刊行作業では、刊行委員会を組織し、応募・投稿された技術報告等の審査を行い、技術報告 18 編、「伝統的な造園空間の継承技術」に関わる特集テーマ 6 編、寄稿論説 7 編の合計 31 編を掲載した。

#### (6) Urban and Regional Planning Review (URPR)

- ・ 都市・地域計画に関する会員の優れた研究論文（英文）を科学技術振興機構（JST）が運営する「科学技術情報発信・流通総合システム」（J-STAGE）で電子ジャーナルとして刊行し、公開した。
- ・ 刊行作業では、都市・地域計画等に係わる研究者から構成される論文集委員会を、日本都市計画学会および日本計画行政学会と連携して組織し、規定にしたがって投稿された論文を審査し、学術的水準を評価し、論文集への掲載の可否を決定した。

#### (7) Landscape and Ecological Engineering (LEE)

- ・ 国際誌 LEE (Landscape and Ecological Engineering) の国際コンソーシアム (ICLEE) へ参画し、刊行・編集に関わる活動を行った。

#### (8) 造園工事総合示方書

- ・ （一社）日本造園建設業協会との包括的連携事業の一環として、「造園工事総合示方書・技術解説編」（平成 27 年 5 月刊行）の内容の実効性の向上と広範囲にわたる活用を促進するために、造園工事全般にわたる基本原則をとりまとめて示す（仮称）「造園工事総合示方書・基本原則編」の刊行に向けた編集を行った。

#### (9) その他

- ・ その他、調査研究事業等に係わる出版物等を刊行した。

### 3. 講習・研修事業

#### (1) 全国大会

- ・ 平成 28 年度全国大会を、平成 28 年 5 月 27 日（金）～29 日（日）に信州大学松本キャンパス（長野県松本市）を主会場として、教育者、研究者、実務者、学生、市民等を広く対象とした公開シンポジウム、ミニフォーラム、研究発表会、受賞者記念講演、ポスター展示等を開催した。3 日間にわたる全国大会の参加者は、総数延 580 名を数えた。

- ・ 5月27日（金）は、松本城見学会（参加者15名）および国営アルプスあづみの公園視察ツアー（参加者14名）が開催された。また、松本城二の丸および外堀周辺エリアを対象とした学生アイデアコンペティション「歴史的な都市の骨格を復元し、新たな景観とにぎわいをデザインする」の一次審査選考作品10組の公開プレゼンテーションおよび、二次審査会として審査委員との意見交換会などが開催された（公開審査会参加80名）。
- ・ 5月28日（土）は、定時社員総会の他に、平成27年度日本造園学会賞の発表ならびに表彰式、学生アイデアコンペティション表彰式、日本造園学会賞受賞者講演会、公開シンポジウム「文化財を核としたまちづくり-松本城の世界遺産登録と城下町のまちづくり-」（参加者242名）、熊本地震復興支援調査報告（参加者約180名）、大会企画展示「地域資源を活かしたランドスケープ」「自然・歴史・未来を展望する 信州のランドスケープ」、学生アイデアコンペの作品展示、作品選集2016ポスター展示および交流会を開催した。
- ・ 5月29日（日）は、研究発表会（16セッション・62件）、教育職能フォーラム（2テーマ）、研究推進委員会フォーラム（3テーマ）、ミニフォーラム（6テーマ）、熊本地震復興支援緊急集会、大会企画展示、学生アイデアコンペの作品展示および作品選集2016ポスター展示を開催した。
- ・ 全国大会の成果は、機関誌等（出版事業）にも掲載し、公表した。
- ・ その他、平成29年度全国大会の企画・運営の準備等を行った。

## （2）支部大会

- ・ 平成28年度支部大会を、北海道、東北、関東、中部、関西、九州の各支部において開催した。広く教育者、研究者、実務者、市民、学生を対象にした見学会、公開シンポジウム、フォーラム、研究発表会、ポスター展示等を実施した。
- ・ 北海道支部大会を、平成28年10月1日（土）に、北海道大学人文・社会科学棟（北海道札幌市）にて開催した。研究・事例発表会（口頭発表10件、ポスター発表22件）、シンポジウム「インバウンド観光と北海道の公園：外国人旅行者への対応と魅力ある管理運営」、交流会、見学会等を開催した。また、研究・事例発表会では優秀な学生発表に対して表彰を行った。
- ・ 東北支部大会を、平成28年10月22日（土）～23日（日）に、東北大学災害科学国際研究所（仙台市青葉区）にて開催した。「東日本大震災からの復興とランドスケープ — ランドスケープが果たした役割と東北の未来の課題 —」を大会テーマとし、研究・事例発表会（ポスター発表3件）、基調講演、パネルディスカッション、ポスターセッション、交流会、見学会等を開催した。また、研究・事例発表会では優秀な学生発表に対して表彰を行った。
- ・ 関東支部大会を、平成28年11月26日（土）～27日（日）に、東京情報大学（千葉県千葉市）他にて開催した。現地見学会・現地セッション、事例・研究発表会（口頭発表35件、ポスター発表22件）、学生デザインワークショップ「東京ベイを考える 東京湾臨海部にオリンピック・パラリンピックパークを提案する」の成果発表会、公開シンポジウム「ウェルカムグリーン：2020のレガシーになる“みどり”の地域づくり」、交流会等を開催した。また、研究・事例発表会では優秀な発表に対して表彰を行った。
- ・ 中部支部大会を、平成28年11月19日（土）～20日（日）に、金沢美術工芸大学（石川県金沢市）にて開催した。研究・事例発表会（口頭発表12件、ポスター発表19件）、公開シンポジウム「金沢の文化的景観と造園」、見学会、交流会等を実施した。また、研究・事例発表会では優秀な学生発表に対して表彰を行った。
- ・ 関西支部大会を、平成28年10月15日（土）～16日（日）に、京都大学（京都府京都市）他にて開催した。シンポジウム「魅力ある風景の未来に向けて」、公開研究会、交流会、研究・事例発表会（口頭発表23件、ポスター発表19件）、見学会、交流会等を開催した。また、研究・事例発表会では優秀な発表に対して表彰を行った。

- 九州支部大会を，平成 28 年 11 月 26 日（土）～27 日（日）に，九州大学大橋キャンパス（福岡県福岡市南区）にて開催した。「自然災害からの復興とランドスケープ」を大会テーマとし，研究・事例発表会（口頭発表 30 件，ポスター発表 17 件），公開シンポジウム「今，わたしたちができること～ランドスケープからみた熊本地震～」，特別パネル展，見学会，交流会等を開催した。

### （3）日中韓国際ランドスケープ専門家会議・国際シンポジウム

- 第 15 回日中韓国際ランドスケープ専門家会議を，平成 28 年 10 月 28 日（金）～30 日（日）に東京大学弥生講堂と日比谷公園「緑と水の市民カレッジ」において開催した。「都市インフラとしてのランドスケープ—Landscape as Urban Infrastructure—」をテーマとし，国際シンポジウム（一般公開），調査研究発表会，付設展示，造園学生コンペティション審査および作品展示，テクニカルツアー，3 学会長会議，口頭発表ならびにポスター発表等を開催し，参加者は延約 1,200 人であった。
- 10 月 28 日（金）は，3 コースにおけるテクニカルツアー，「Redefining 42.195km as Green Infrastructure」をテーマとした学生造園アイデアコンペティション最終審査会，日本造園学会，中国風景園林学会，韓国造景学会による 3 学会長会議が行われた。
- 10 月 29 日（土）は，一般公開による国際シンポジウム「都市インフラとしてのランドスケープ（Landscape as urban infrastructure）」を開催した。
- 10 月 30 日（日）は，調査研究発表会として口頭発表 12 件，ポスター発表 39 件が行われた。

### （4）その他

- 都市公園法施行 60 周年記念事業に参画し，記念シンポジウムほか各種催しにおいて活動を行った。

## 4. 専門教育推進・評価事業

### （1）JABEE 認定審査

- 造園関連分野の大学等における実務者養成の支援，促進のための JABEE（日本技術者教育認定機構）の認定審査・認定継続審査の受審，審査申請予定校の支援として，審査員の育成等に関する意見交換を行った。

### （2）環境・造園系専門職大学院認証評価

- 環境・造園系実務者の養成機能の維持・向上のために，環境・造園系専門職大学院の適格性の認証評価を行うこととしており，平成 26 年 2 月に受審校である「兵庫県立大学院緑環境景観マネジメント研究科」へ送付した調査報告書の中の B 判定事項に対する改善報告書について，3 名からなる幹事会にて審議を行った。
- 大学設置基準等の一部を改正する省令の施行に伴い，環境・造園系専門職大学院評価基準の改定を行った。

### （3）造園 CPD 制度（継続教育制度）の運営

- 造園 CPD 制度に関して，会員登録，実施記録登録，実施記録登録証明書の申請，プログラム認定申請等の各種システムの運営，ならびに実施記録登録証明書の発行，認定プログラムの情報提供，各種問い合わせ等を行った。
- 造園 CPD 会員の入退会や会員区分異動の対応，会員証の発行を行い，平成 28 年度末の会員登録者数は 7,570 人となった。
- 平成 28 年度実施分のプログラムとして 475 件を認定した（平成 29 年 3 月 31 日現在）。

- ・ 造園 CPD 登録実施記録審査委員会および造園 CPD 推進委員会登録実施記録審査検討（エビデンス）部会において、登録実施記録証明書の発行申請があった記録を対象に、記録内容および証拠資料について審査を行った。
- ・ その他、造園CPD制度ホームページ等による広報・普及活動、建設系CPD協議会等関連団体との情報収集・交換等を実施した。

## 5. 表彰事業

### （1）日本造園学会賞・奨励賞・上原敬二賞

- ・ 造園に関する学術、技術および芸術の進歩をはかるため、造園に関し特に優秀な業績をあげた会員に、研究論文、技術、設計作品の3部門からなる「日本造園学会賞」を授与した。また各部門に「奨励賞」を設けて授与した。加えて、造園の分野において著述、教育あるいはその他広範な社会活動を通じて造園の進歩・発展ならびに啓蒙に多大な貢献をしたと認められる者に「上原敬二賞」を授与した。
- ・ いずれも識見の高い研究者及び実務者から構成される学会賞選考委員会が、規程にしたがって審査選考を行った。平成27年度に審査選考された授賞候補者について、理事会にて審議・決定し、全国大会において表彰した。内訳は、日本造園学会賞は、研究論文部門1名、設計作品部門3名、同奨励賞は研究論文部門6名、上原敬二賞3名であった。また、平成28年度表彰の各賞の選考審査を行った。

### （2）その他

- ・ 若手研究者の支援と学術研究活動の活性化を図るために、全国大会における「学生アイデアコンペティション」、「全国大会ベストペーパー賞」、日中韓ランドスケープ専門家会議における「学生造園アイデアコンペティション」、支部における各種表彰等を実施した。特定の課題に対する計画・設計作品、論文・発表等について、識見の高い専門家から構成される審査委員会を設けて審査する形式をとった。

## 6. その他

- ・ 公益法人としての運営の適正化を図るために、事務局機能の強化、各種規程・規則の改定および整備等に努めた。
- ・ 学会の公益事業に関する情報の発信や会員サービスの向上等に資するために、学会ホームページの運用の改善を図った。

### Ⅲ. 役員等に関する事項

#### 1. 役員

役名	氏名	就任年月日	担当職務	手当	職名 (H29.3.31現在)
理事・会長	宮城 俊作	H.13. 5.26	総括	無	奈良女子大学生生活環境学部教授
理事・副会長	斎藤 馨	H.13. 5.26	タスクフォース(連携) ・支部・専門職	無	東京大学大学院新領域創成科学研究科教授
理事・副会長	横張 真	H.13. 5.26	学会賞・校閲・ 専門職	無	東京大学大学院工学系研究科教授
理事	小野 良平	H.19. 5.19	総務	無	立教大学観光学部教授
理事	高橋 新平	H.27. 5.23	企画・支部	無	東京農業大学地域環境科学部教授
理事	池邊このみ	H.17. 5.14	学術・JABEE・ 熊本地震復興 支援調査	無	千葉大学大学院園芸学研究科教授
理事	柴田 昌三	H.23. 5.21	編集・校閲	無	京都大学大学院地球環境学学術教授
理事	深町加津枝	H.17. 5.14	国際	無	京都大学大学院地球環境学学術准教授
理事	加藤 友規	H.25. 5.25	財務・タスクフォース (財務)・学会賞	無	植彌加藤造園株式会社代表取締役社長
理事	柳井 重人	H.21. 5.23	論文集・校閲	無	千葉大学大学院園芸学研究科准教授
理事	金岡 省吾	H.21. 5.23	CPD	無	富山大学地域連携推進機構教授
理事	加我 宏之	H.27. 5.23	JABEE・論文集・ CPD	無	大阪府立大学大学院生命環境科学研究科准教授
理事	篠沢 健太	H.27. 5.23	総務・国際・ 日中韓	無	工学院大学建築学部まちづくり学科教授
理事	鳥居 敏男*	H.25. 5.25	企画	無	環境省大臣官房会計課課長
理事	永松 義博	H.27. 5.23	支部	無	南九州大学環境園芸学部教授
理事	棚野 良明*	H.27. 5.23	編集	無	国土交通省大臣官房審議官
理事	萩野 一彦	H.27. 5.23	作品選集・CPD	無	日本大学理工学部まちづくり工学科客員教授
理事	服部 勉	H.27. 5.23	学術	無	東京農業大学地域環境科学部教授
理事	藤原 宣夫	H.19. 5.19	技術報告集・タスク フォース(連携)・学会賞	無	大阪府立大学大学院生命環境科学研究科教授
理事	細川 卓巳	H27. 5.23	国際・日中韓・ 技術報告集	無	公益財団法人東京都公園協会技術管理担当部長
監事	大黒 俊哉	H.21. 5.23	監査	無	東京大学大学院農学生命科学研究科教授
監事	萩野 淳司	H.27. 5.23	監査	無	アゴラ造園株式会社代表取締役社長
監事	金子 忠一	H.19. 5.19	監査	無	東京農業大学地域環境科学部教授

※理事の就任年月日は新任の際の就任年月日である。

※表中\*印は「公益法人の設置許可及び指導監督基準」および「同運用指針」に該当する国家公務員出身者である。

## 2. 支部長

支 部	役名	氏 名	就 任 年月日	職 名 (H29. 3. 31 現在)
北海道	支部長	大塚 英典	H. 27. 4. 1	株式会社ドーコン都市・地域事業本部都市環境部上席技師長
東 北	支部長	温井 亨	H. 23. 10. 15	東北公益文科大学公益学部教授
関 東	支部長	田中 伸彦	H. 28. 4. 1	東海大学観光学部教授
関 西	支部長	田中 充	H. 28. 4. 1	(公財)国際花と緑の博覧会記念協会専務理事
中 部	支部長	岡村 穰	H. 27. 4. 1	名古屋大学大学院環境学研究科教授
九 州	支部長	永松 義博	H. 27. 4. 1	南九州大学環境園芸学部教授

## 3. 幹事

役名	氏 名	就 任 年月日	担当職務	職 名 (H29. 3. 31 現在)
幹 事	國井 洋一*	H. 23. 6. 18	総 務	東京農業大学地域環境科学部准教授
幹 事	大久保 悟*	H. 19. 6. 30	総 務	国立研究開発法人農業環境技術研究所主任研究員
幹 事	八色 宏昌*	H. 25. 7. 6	タスクフォース(連携)	景域計画株式会社代表取締役
幹 事	水庭千鶴子*	H. 15. 7. 12	企 画	東京農業大学地域環境科学部准教授
幹 事	武田 重昭*	H. 25. 7. 6	学術・JABEE・熊本 地震復興支援調査	大阪府立大学大学院生命環境科学研究科助教
幹 事	片桐由希子*	H. 27. 6. 27	編 集	首都大学東京都市環境学部助教
幹 事	菊池佐智子*	H. 25. 7. 6	国 際	公益財団法人都市緑化機構企画調査部研究員
幹 事	飯田 晶子*	H. 27. 6. 27	学会賞・日中韓	東京大学大学院工学系研究科助教
幹 事	横田 樹広*	H. 25. 7. 6	論文集	東京都市大学環境学部准教授
幹 事	嶽山 洋志	H. 27. 6. 27	論文集(オンライン)	兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科講師
幹 事	岸 孝*	H. 28. 6. 25	作品選集	株式会社プレイスメディア
幹 事	大平 和明*	H. 27. 6. 27	技術報告集	兵庫県立人と自然の博物館研究員
幹 事	神田 紀喜	H. 27. 6. 27	専門職	公益社団法人日本造園学会事務職員
幹 事	栗野 隆*	H. 23. 6. 18	CPD	東京農業大学地域環境科学部准教授

※表中\*印は総務委員会委員兼務。

## 4. 職員

職 務	氏 名	就 任 年月日	担当 職務	備 考
事務局長	斉藤 庸平	H. 28. 5. 1	事 務	常 勤
事務職員	芹田 留美	H. 7. 4. 1	事 務	常 勤
事務職員	久住 悦子	H. 21. 10. 1	事 務	常 勤
事務職員	神田 紀喜	H. 24. 4. 1	事 務	非常勤